

セミナー企画書

ペホス(アプロクリエイト代表)
連絡先 : contact@en-coach.com

【タイトル】

理由を探る認知症ケア～関わり方を180度変えるコツ～

【参加対象】

- 認知症がある方との関わりに戸惑っている介護者（家族・専門職問わず）
- 認知症がある方を「何もできない／わからない人」のように捉えるスタッフの見方を180度転換して、本人目線のケアに切り替える方法を知りたい教育担当者
- 職員研修で現場に即した認知症ケアを学べる内容を探している方

【参加者が得られるメリット】

- 利用者目線でケアを捉えなおす“考え方”と“プロセス”を学ぶことができる
- 理由を探ることで、不適切なケア（虐待や身体拘束）を予防できる
- 新人教育やスタッフ指導で、具体的に観察するポイントを教えることができる

【コンセプト・概要】

多くの場合、わたしたちが利用者と出会う時、何かしらの「認知症がある」という情報とともに出会います。そのため、「人」ではなく「認知症」にフォーカスが当たってしまい、利用者の言動を「認知症」と紐づけて解釈する厄介なクセを身につけがちです。

理由を探る認知症ケアでは、このクセを持っていることに気づき、利用者の言動を「認知症」ではなく「人」という視点から捉えなおす作業を、ひとつずつ押さええます。

認知症がある方とはコミュニケーションがとりにくさから介護者が悩むことが多いため、介護者の関心は、自然と「こういう時は、どう（対応・対処）したらいいの？」と、『手立て』に偏りがちな側面があります。しかし、その『手立て』が利用者にとって適切かどうかを決めるのは『見立て』によります。

この講座は、その『見立て』の観点を増やし、利用者の言動の理由を探るケアを実践できるようになるための基礎を学ぶことができます。

【所要時間】

90分～120分程度（1日研修としての実施も可能）

【内容】

1) 理由を「探る」ことで、ケアの根拠を「増やす」

- ・ 求められる根拠のあるケア
- ・ 「見立て」（アセスメント）のカードを増やす
- ・ 「手立て」（アプローチ）のカードを増やす

2) 「どうしたらいいの？」という質問を掘り下げる

- ・ このセリフが出てくる場面を振り返る
 - ① 本人が言う時
 - ② 周囲の人が言う時
- ・ この問いの背景に隠れている「もう一つの問い」

3) 理由を探るステップ1： “問題” の表現を変える

- ・ 知識がアセスメントの邪魔をする？！
- ・ 問題の表現を変える方法その1
- ・ 問題の表現を変える方法その2

4) 理由を探るステップ2： 人の反応プロセスに注目する

- ・ 反応プロセスを3段階でとらえる
 - ① 本人のプロセス
 - ② 周囲の人のプロセス

5) 理由を探るステップ3： 観察ポイントを共有する

- ・ 人が影響を受ける4大要素
- ・ 実は軽視できないもう1つの要素

【参加者の声】

- ・ 正直、目から鱗のウロコの内容でした。この考え方は、認知症の方に限らず、子どもや部下との関わりでも大切だと思いました。 (グループホーム管理者・40代)
- ・ 利用者さんを思い出しながら講義を聴いて、まだまだやれることがたくさんある！と元氣になってきました。 (ショートステイ相談員・30代)
- ・ 職員への指導のヒントをもらえました。 (サービス提供責任者・50代)

【参加特典】

希望者に当日のスライド (PDF 版) を進呈